

国文学研究

第百六十八集

「徒勞」再論

——白鳥における〈家〉——

佐々木 雅 發 1

初期堀辰雄作品における「死」の導入

——コクトオ受容にみる作品および作家の変容——

宮 坂 康 一 12

横光利一「家族会議」と〈新聞小説〉の時代

——「義理人情」の表象と文芸復興における「民衆」意識の接点——

古 矢 篤 史 23

『万葉集』の訓字主体表記に見える二種の仮名

——表記環境による字母の違い——

澤 崎 文 34

『名目抄』所載の漢語に差された声点について

——漢語アクセント史構築のために——

上 野 和 昭 47

〈書評〉

小村宏史著『古代神話の研究』

瀧 音 能 之 59

新刊紹介 彙報 編集後記

複合作品としての日並皇子尊哀悼歌

「玉寄する三崎」考

——『鴨長明集』の左注歌をめぐって——

『甲駅新話』における宿場女郎の手管

二つの「顔」と「鏡」

——夏目漱石「木屑録」と『倫敦消息』——

京都の遠景、京都の点景

——『五足の靴』・志賀・子規・吉井勇にみる風景表象——

宮嶋資夫『坑夫』とゴーストの〈放浪文学〉

——石井金次の人物像の二面性を中心に——ブルナ・ルカーシユ

副詞「たいそう」の変遷

——近代語を中心に——

前 号 目 次

〈書評〉

斎藤菜穂子著『蜻蛉日記研究——作品形成と「書く」こと——』

川村裕子 72

佐々木雅發著『鷗外白描』

井上優 75

上野和昭著『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』

奥村和子 80

二〇一一年度修士論文・卒業論文題目

新刊紹介 彙報 編集後記